

【小施策評価(平成29年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	経営企画課	
施策	26	都市基盤施設の維持・強化	評価 責任者	小川 秀樹	内線 697-6230
小施策	26-7	雨水浸水対策の推進	評価 シート 作成者	小笠原 美千代	内線 697-6231

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
近年の都市型集中豪雨による浸水防除のためにも、幹線水路の整備や面的整備を進める必要がある。また、既存施設の耐震化を進めるとともに、老朽施設の大規模な改築・更新を行う必要がある。		浸水状況の把握を行い、緊急性のある雨水幹線整備を重点的に実施することにより、浸水被害を解消し、市民の生命・財産の保護及び都市機能の確保を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(対象をどのようにしたいのか)
雨水排水施設 市民		浸水被害を解消し、安全な水環境が確保される。 市民の生命・財産の保護及び都市機能の確保を図る。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 下水道雨水施設整備率(整備面積/雨水認可面積)	単 位	目指す方向	成 果 点	⇒	成 果 の 要 因 分 析
当初値 (H25) 60.2	%	↗	・雨水整備率の増(61.6%→61.9%)		・未整備地区における雨水排水施設整備が行われたことによる。
H31目標値 61.4					
H36目標値 62.8					
			問 題 点	⇒	問 題 の 要 因 分 析
			・他事業が関連する幹線整備が計画どおり進んでいない箇所がある。		・他事業を所管する部署での計画的な予算措置が難しいため。

今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
★ 未整備地区の幹線整備と面整備を図る。	
★ 過去に浸水被害を受けた箇所の災害防止を図る。	
★ 他事業を所管する部署と調整し、計画的に事業を進めていく。	